

2021年度 活動報告

●はじめに

今期もコロナに翻弄され、1学期は「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」が発出されて、年初計画通りの活動ができず10月から本格的に授業再開という状況でした。

幸いにも入学式は開催できましたが、多くのイベントが中止や縮小という残念な結果になりました。結果として受講生の満足度を高め、CD活動に対する達成感を十分に味わえる様な年度ではなかったと思っています。

また、環境変化に伴いコーダイを大きく変える必要性から「ニューコーダイ創造」という大きな改革にチャレンジし始めました。しかし、コロナ禍もあって活動が全校的に十分浸透するレベルにまでなりませんでしたが、次年度からは加速しながら改革を進めてまいります。

●基調報告

1. 当初計画していた人材育成については、コロナ禍の中では計画通りの活動ができませんでしたが、人材公募等に明るい兆しも見え、引き続き次世代へスムーズなバトンタッチが出来る様な活動に注力していきます。
2. 「ニューコーダイ創造」活動は、我々が先頭を切って活動できている状況ではなく、まだまだベクトル合わせが必要な状況にあります。しかし、多くの仕掛けは出来つつあり、次年度に期待できる状況にあると思っています。
その一つにCDが力を発揮し易い環境創りがありますが、ソフト・ハード面共に、後半になってやっと多くの立案が出来、次年度に順次実施できる状態になって来ました。
一方では、現場への目配り・気配り・心配りをしながらCDとの一体感を醸成するという観点ではまだまだ不十分で課題も沢山あります。次年度に向けて成果を徐々に広げていきたいと思っています。
3. コロナ禍におけるオンラインについては、必要最小限度の実施しかしておりません。高齢者にとってはFace to Faceのコミュニケーションが大事であり、多くの受講生もオンラインを希望していない状況です。しかし、会議等ではオンラインもそれなりに浸透して来ました。デジタル化もLine Works、Line Cafeなどを取り込み、少しずつですが前に進み始めています。しかし、まだまだ十分ではなく根気強く浸透を図っていきます。
4. 「第2次5年先を見据えた戦略」への策定はコロナ対応を優先し、直近の課題改善に注力した結果、第4四半期から作成を開始し始めたところです。今後はスピードを上げて策定に取り掛かります。
5. 講座改革委員会は科目の新陳代謝を積極的に進め、興味を掻き立てる様な新規科目を6科目、科名変更に伴うバージョンアップを4科目、短期講座を5科目から3科目に絞り込みました。

結果として残念ながら7科目を休講としましたが、受講生数は昨年度より少し増加しました。また、講座に関する提案をし易くするためにHPから提案できる様に改善しました。

6. 事業部門、子ども事業部門についてはコロナ禍で当初計画通りに活動はできない状態でしたが、将来に向けた事業の洗い直しや学習内容の充実、学べる場の拡充は継続して進めていきます。また、KOUDAI AWARDについては内容の見直しを行い、次年度から新たなスタートを切ります。
7. 情報管理部門は数年先を見据えたコーダイのデジタル化の中核部隊として、インフラ整備やリモート講義・会議システムの構築に努めて来ました。課題も見え今後は課題解決をしながらデジタル化を加速していきます。
8. 経理業務の効率化と財務システムの強化は徐々に進展しつつあり、第4四半期の人材公募の効果も見込まれる状態となり、次年度からさらに加速できると考えています。
9. コーダイの顔である広報から発信される広報ツールを駆使した広報活動に注力しました。機関誌においてはそれなりの効果も出ましたが、一般市民に対してより一層アピールできる活動という点では検証が必要な部分も多々あります。今後は課題を潰しながらさらなる活動を続けていきます。
10. 寄附金徴収システムの見直しを継続して行っており、一般の方々や企業からの寄附金増加を図れるシステム構築にはもう少し時間が必要です。
11. 関西シニア大学校・大阪シニア大学校交流会、校友会、なにわの宮会等についてはコロナ禍で活動が停滞状態でした。また、Withコロナの中で課題もあり、今後検証していく必要があると考えています。

●教育部門

教育部門はCDの皆さんと協働し、発展的長期展望を持って、各種施策を進めていきたいと考えていましたが、昨年を引き続いてのコロナ禍、思うように推進できなかった面が多々ありました。

現場中心で開かれた教育部門を目指し、引き続きCDの皆さんと一体的な行動を推し進めていきます。

今年度の新しい取り組みであった、自主企画講座や自主活動について、設定意図についての理解に齟齬があり、CDの教室運営へのサポートが十分に働きかけできなかったように見られましたので、新年度に向け引き続き対応していきます。

コロナ禍、休講せざるを得ない期間が生じ、CDの皆さんにはその都度カリキュラムの再編成に多くの時間を割いて頂き、ご協力を頂きました。

また、濃厚接触者や感染者が現れましたがCDの皆さんを通じて感染予防対策の徹底を受講生に強く働きかけた結果、連絡網構築とCDスタッフ間の連携により、クラスター発生、全校休講等の大事に到ることなく、無事年度末を迎えることができました。CDの皆さんには感謝しかありません。

コーダイは13年目を迎え、「ニューコーダイ創造」活動を推進するにあたり、NPO設立時か

らの理念浸透に取り組みましたが、期待するほどの成果は見られませんでした。引き続き、関係各位に理解いただけるよう努めたいと考えます。

クラブ活動についてはコロナ禍、引き続き活動が自粛となりました。

また、コロナ禍でコーダイのモットーである学ぶこと、仲間づくり、健康づくり等の推進活動も自粛せざるを得ませんでした。

コーダイジョイフルゲームズ・コーダイフェスタは、コロナ禍のために中止となりましたが、それに変わるイベントとして「エンジョイコーダイ 2021」を開催しました。

引き続き、関係部門と協調しながら、より良い学校運営に取り組んでいきます。

●教科研究部門

昨年度、総合企画部門は戦略部と教科研究部の2部制であったが、教科研究部門・教科研究部1部門1部に改組されました。教科研究部門の役割は、先を見据えた科目揃え、科目力アップや科目の新陳代謝を行い、常に魅力のある講座を受講生に提供することにあります。

1. 各部員は自主的、日常的に外部団体で行われている講演会や市民公開講座への参加及びコロナ禍以降、盛んに各所で配信されているオンライン講座等の視聴等により、魅力的な講座・テーマの情報収集や、講師の発掘のための活動を行ってきました。
2. 講座構築・改革は全部門が取り組むべき課題であり、全部門よりメンバーを招集して講座改革委員会を設置しています。その運営は教科研究部が主管しています。委員長及び3名の副委員長と体制強化を図り、幅広い観点での議論や検討を行ってきました。
3. その基盤として、12分野（59科目）の分野別専門部会を設置しています。各分野担当部長を中心に各科目のCDで構成しています。分科会では講座に直接かかわっているCDから講座内容や講師の講義力などの評価や課題の報告を受け、情報の共有化を行い次年度以降のカリキュラムや講師の入れ替えなどについて議論を行い、その結論（方向性）を講座改革委員会に提示しました。
4. 講座改革委員会の開催は夏・冬休みを除いて毎月開催を予定していましたが、コロナ対策のため、当初予定通りには実施できない時もありました。次年度の受講生募集のために、開講する科目・講座について、講座改革委員会としての基本計画を募集委員会及び理事会に上申する必要があり、委員会開催を詰めて実施しました。
5. その結果、2022年度については現在開講している科目のうち、7科目を休講といたしました。一方、新規科目6科目、科名改称科目7科目、分野移動科目6科目等、新陳代謝を図った結果、2022年度は本科・SA養成講座、実践科として59科目を開講することを提案いたしました。
6. また、多様化する受講生ニーズの変化や企業等の定年延長や働き方改革に伴ない高齢者の雇用が進み、従来のように1年間通して「学ぶ」ということが難しいという状況が生じてきております。そのような時間的制約や通年受講が困難な人のために短期講座として、歴史、美術、暮らし、科学・技術、文化・文芸分野の5講座を開講いたしました。各講座の修了後のアンケート結果を見ると、大変評判が良く、継続の要望が高いことが伺えました。

課題としては短期講座の受講生が本科を受講してもらえるように、また、コーダイ初めての人の獲得につながるようにしていくことに努めました。

次年度の短期講座は当初3講座を予定していましたが、1講座は講師の事情により、中止をしました。

7. コーダイ独自の市民公開講座は3回実施いたしました。本講座の目的は、特定科目の授業の一環ですが、できるだけ多くの受講生にも聴講できるよう機会提供し、また、新たな受講生を発掘するために開催しています。講師としてNHK大河ドラマの時代考証を担当されている小和田 哲男氏、爆発的に売れたと評判の「応仁の乱」の著者呉座 勇一氏、日本発の新型コロナワクチン研究開発中の大阪大学の森下 竜一教授に講義をして頂き、大変好評でした。
8. また、新たな学びの方法として、諸大学との連携強化を図る目的で来年度から開講する大阪公立大学事務局へ、教室の利用や講師の派遣などについて申し入れを行ってきました。その結果、新大学は準備段階であり即応できないこともあり、合併する大阪市立大及び大阪府立大学がすでに実施している地域（社会）連携事業として、当大学校と協力できることになった。その第1弾として、大阪市立大学地域連携センターとコーダイの連携市民公開講座を大阪市立大学文化交流センター（大阪駅前第2ビル）で3回実施いたしました。今後は大阪府立大学や大阪大学等との連携を強化して、魅力のある講座を提供していきたいと考えています。
9. 一方、コロナ禍で従来のような対面授業が困難な状況下において、受講生に授業を安心して受けて頂ける方法としてZOOMを活用したオンライン講座などの採用を1、2回ほど実施いたしました。しかし、「機器の操作がスムーズにいかない」「受信環境が不安定である」とか、「講義が聞き取りにくい」などの問題が多く出て、積極的に取り入れていくことは時期尚早と判断をしました。今後の課題として検討いたします。
10. 魅力的な科目は、コーダイのスタッフのみの力では実現ができません。受講生やクラスを運営しているCDからの提案を求めています。従来は新規提案制度で書類形式の受付を行ってきましたが、デジタル化時代に適合するよう、コーダイホームページからWebで提案ができるようにしました。

●戦略企画室

1. 本年度から新しく組織化されました戦略企画室は、理事長直轄として方針の具現化をスピーディにし、課題改善を関連部門と協働して下記の項目に取り組みました。
 - (1) 校外学習時に発生するCD交通費について、実態調査の結果を踏まえた上で現行の交通費支給方法を見直し、2021年度下期より対象者各CDへの支給を開始しました。
 - (2) 毎年度末に実施しています「受講生アンケート」主幹元を教科研究部門から移管して戦略企画室にて実施する事と成りました。

この機会をとらまえて、「ニューコーダイ創造」にチャレンジすべく、アンケート質問項目を工夫して、受講生目線で見えたコーダイ改革の芽を見つけ出して、改革に繋げました。

- ・コーダイ 8 部門から各 1 名代表者によるプロジェクトを組織して、全部門参画による活動としました。
 - ・アンケートのシステム改革として、手作業からスマホを活用した自動集計方式を導入し、大幅な集計作業改善を達成しました。
- (3) 2022 年度・入学式に於ける講演会のテーマ選定と講師探索については、入学式準備委員会にて当テーマも含めた総合計画の任に当たる事になりました。
当戦略企画室からは、委員として 2 名が参加いたしました。
2. 第二次・5 年先を見据えた「中長期計画策定」につきましては、検討の為の諸調査を始めた段階で本年度終わりました。本テーマにつきましては、2022 年度にて本腰を入れた活動を実施いたします。
 3. 大阪シニア大学校交流会は、コロナの感染拡大等もあり開催時期が遅れましたが、1 月に昨年と同じ 7 校にて実施いたしました。特に、コロナ禍の下での学校運営では各校共に苦慮されている発表がありました。情報を共有しながら互いに切磋琢磨し、活動の進化を目指した活動となりました。
 4. 阪神奈大学校・研究機関生涯学習ネット（大阪府主催）に昨年度加盟しました。加盟して 2 年目になりますが、昨年はコロナ流行で活動は中止となりました。
よって、本年度が加盟して初めての活動を展開しました。
コーダイの講師による市民公開講座として、歴史学をテーマに開講しました結果、ほぼ定員数の参加者で、満足度の高い評価を頂きました。広く大阪市民へのコーダイ広報が出来ました。
 5. 本年度予定していました「関西圏・首都圏シニアカレッジ交流会」は、コロナ感染拡大により中止する事となりました。

●事業部門

2021 年度においても 3 か月の休講及び活動の制限が続き、実施直前の行事の中止や計画自体を断念せざるを得ない状況が続きました。

<事業推進部>

多くの受講生に喜んで頂ける企画として、大阪桐蔭高校吹奏楽の演奏会を決定し、生徒さんも練習に入った段階で中止を余儀なくされました。次年度の実施を目指します。

安全な生活の一助としての救命講習会を大阪市消防局の協力の下、実施いたしました。

当初 2 回の予定でしたが、消防局の要請により 1 回のみとなりました。

前年度、直前に中止をしましたクリスマスコンサートを 12 月に開催し人数制限の中、定員一杯の受講生に参加頂きました。久しぶりのホールでのコンサートで盛り上がりました。

さらに、市民公開講座として国内のコロナワクチンの開発状況に関する講演を行いました。

会場とオンライン参加の方式で実施しました。

また、前年中止の 2 回の大阪マラソンには今年度いずれも 200 名以上の受講生がボランティ

アとして参加され、大会盛り上げの一翼を担って頂きました。

また、養父市との事業連携につきましては、自治体による行動制限が徹底され、相互訪問による人的交流ができませんでした。しかし、養父市戦略特区担当部長によるコーダイの講座での講義は行われ、今後の学習連携の進め方についての話し合いは続けております。

受講生に共感を持って参加頂けるよう、事業推進の内容を検証していく作業に入っております。

<BSC>

コーダイの大きな柱の一つであります社会参加活動への受講生の多種多様な関わり方を模索いたしました。

行動制限が続く中、SA（シルバーアドバイザー）養成講座2科目の受講生は地域貢献活動に励まれ、多くの皆さんが大阪府からSA認定証を受けられました。

本来であれば大きな会場で認定証授与式を実施し、さらなる活動への励みにして頂くところですが、認定証と記念品の送付に変えざるを得ませんでした。

KOUDAI AWARD（地域貢献活動に対する表彰）につきましては、皆さんの報告・発表会の開催が困難なことから延期いたしました。

2022年開催が予定されていましたが関西でのワールドマスタースへの英語ボランティアについては、受講生の参加登録がされていましたが白紙となりました。

BSC部門におきましても、各制度自体の根本的な見直し作業に既に入っております。

KOUDAI AWARD制度の抜本的な改革や、各地域で活動されている皆さんをコーダイとしてどう応援できるかの模索などです。

コーダイの理念と受講生の理解が一致するように、との思いで検討を続けております。

●こども事業部門

1. 「法円坂子どもプラザ」科学ともの作り体験型教室は2クラス60人で10月・11月・12月・3月と計4回開催しました。
2. 「子どもプラザ高槻」「子どもプラザ堺」も科学ともの作り体験型教室として新規に企画し高槻は10月・11月・12月に3回、堺は毎月開催で12回行いました。
3. 「科学フェスティバル」は法円坂・高槻・堺ともコロナ禍で中止としましたが、大阪のみ法円坂にて夏休み科学フェスティバルとして8月1日（日）に行い91名の参加者がありました。
4. 伝統文化親子教室は18組の親子の参加があり開催しました。いきいき教室は毎月1～2回予定通りに行いました。
5. 長居公園イベントは「わくわくナガイ夏休み科学実験お工作教室」と「ネモフィラフェア」を企画していましたがコロナ禍で中止としました。

コロナ禍でしたが、周辺各地区への科学実験講座の開催に努力しました。

●情報管理部門

<システム部>

1. 募集データの集計システムを通して新受講生へ合格通知の発送、入金管理にて受講生を決定後、入学案内など発送し受講生名簿、名札など入学準備の体制づくりを行いました。
2. 受講生、講師、スタッフのデータベース化により個人情報の管理運営に努めました。
3. HP での募集要項、応募状況をリアルタイムに掲載発信し、HP から受講申込が 900 件以上ありました。

<デジタル化推進部>

1. コーダイネットワークシステムの推進を図りデジタル化を進めてきました。
2. コーダイ内外においてインフォメーションが迅速・正確に流れるようにし、オンラインを駆使した研修会・講座・会議ができるように体制を整備しました。

<情報処理部>

1. 受講生台帳の集計管理と出席簿の学期単位のデータベース化して修了証書の発行を行いました。

●広報部・ファンド部門

<広報誌>

広報誌「れいんぼー」を大幅リニューアル（受講生ファーストの内容に変更）しました。

- ・年 4 回発行（2021 年 4 月、7 月、10 月、2022 年 1 月発行）
- ・基本ページ数 16 ページ
- ・受講生との協働作業で掲載記事を作成
（受講生紹介、クラス紹介、講師紹介、大阪検定など）
- ・広告掲載の促進（シオノギヘルスケア㈱、㈱阪南ビジネスマシン、関電不動産開発㈱、中楽坊）

<パブリシティ>

コロナ禍の中で、ほとんどの行事が中止になり、開催されても入場制限がかかり、積極的に PR できない状況の下、CD や受講生にラジオ出演や新聞掲載を依頼して「コーダイの生の声」一般市民にも伝えさせていただきました。

また、積極的にメディアとのつながりを強化してまいりました。

各部門にプレスリリース委員を設け、各部門でバラバラに作成しているプレスリリースをコーダイカラーで統一しました。

<企業対応>

関西経済連合会傘下の企業との関係作りに尽力された故阿山 薫氏のご逝去に対し、その功績を無駄にしないよう活動しました。塩野義製薬㈱との関係強化を図り健康に関する出前講座をクラスでして頂いたり広告協賛を頂いたりできました。大阪ガス㈱とも一定の関係づくりができました。

<ファンド部>

賛助会員、正会員ともに、前年度と大差のない会員を集める事が出来ました。

PST 寄附も最終的には件数は達成いたしました。

法人会員に関してはコロナ禍のため、一部の企業へのお付き合いが薄れた事もあり、拡大とまではいきませんでした。新規開拓も思うようには出来ず、今後の課題となっています。

●総務部門

・教室、コロナ対策について

2021年度は講座61科目を7教室(教育会館、社会福社会館、なにわのみやホテル、住之江教室、助産師会館、寺田町、梅田)で、より良い受講環境の改善計画を立てたところではありますが、年度途中でなにわのみやホテル教室が使用不可能になり、大変ご迷惑をおかけしました。また、新型コロナウイルスに対するコーダイの対応については、感染確立の高い3条件(換気の悪い部屋、近距離での会話、多人数での密集)が重ならないように対策に取り組んできました。

しかし、コーダイ関係者の中から陽性者、濃厚接触者が発生しました。その都度、コーダイ「新型コロナウイルス」対策会議を招集し、休講措置を含め感染予防を講じてまいりました。引き続き、「安心・安全」を最優先に考え、全校でコーダイ関係者(講師、スタッフ、CD、受講生、OB、出入り業者等)の感染予防対策を徹底します。

・スキル系人材募集について

将来を見据えてスキル系人材の募集について2022年1月にホームページなどで呼びかけたところ、10名の方から応募がありました。今後ヒアリングを行い「ニューコーダイ創造」を担う人材にふさわしい育成を関連部門と協調しながら計画していきます。

・損害賠償補償リスクの回避について

価値観が多様化する今日、様々な(「損害賠償リスク」ハラスメント、人格権侵害等)が想定されますので、日常の啓蒙活動もさることながら備えとして次の保険に加入しました。会社役員倍賞責任保険(D&O:directors & officers)(理事長、副理事長、理事、監事対象 33名) 業務災害補償保険(ビジネスJネクスト)(CD、スタッフ対象 170名)

<経理部>

2021年度は前年度に引き続き、コロナ禍で大変な年となり2期前より受講料の減少を受けて経費削減を念頭に財務を立て直し、月次管理を行い予算と実績の精度向上に努めましたが、部門に浸透するまでにはいきませんでした。

<事務局>

- ・新型コロナウイルス感染症対策につきましては、昨年度より実施しております対応策を継続する事に加え、本年度途中より空気中のウイルスの飛沫状況を察知して、素早く換気の判断を行なえる様にCO2センサーを導入いたしました。
- ・昨年度より授業中のソーシャルディスタンスが取れるよう広い教室の供給を行ってまいりましたが、昨年使用いたしました教室の内、残念ながら本町教室、堂島教室、なにわのみやホテルの3箇所の会議室の貸与を止められました。新たな教室を探しましたが、新たに使用出来るようになったのは梅田学習センターだけで、募集人員を減らさざるをえませんでした。受講希望の方にご迷惑をお掛けいたしました。引き続き、受講希望者のご満足頂ける教室の確保に努めます。
- ・本年度は防災意識の徹底の為、新たな取り組みとして「大阪市消防局出前講座」の紹介を行いました。さらに「消防体験教室」等の紹介を計画しておりましたが、新型コロナの感

染拡大により実施出来ませんでした。来年度には実施いたします。

●募集委員会

2021年の5月、6月、9月が休講という状況の中で2022年度受講生募集が始まりました。コーダイへは是非通いたいとの思いは強くても、通学路や教育環境に対する不安から躊躇される方も多かったと思います。

コーダイでは感染対策の徹底に力を注ぎました。各教室の定員を減らすことによる予防措置も実施いたしました。その結果、受講生を含むコーダイ関係者からの感染は殆どゼロでした。また、10月講義再開後の出席率は90%を超えるもので、コーダイへの期待が感じられる中で募集活動開始となりました。

募集定員減少を踏まえた新しい講座の改革、講師陣の充実による12分野59科目及び短期講座2科目の募集を行いました。

募集に当たっては従来のやり方を変えてみるとの考えのもと、募集活動のテーマ毎に担当者を決め、より柔軟で素早い対応を目指しました。

- ・募集活動の基本となる募集案内冊子は、見やすく解り易いものに一新いたしました。
- ・案内冊子の配布につき、各自治体への協力依頼のため窓口担当者を訪問しました。
- ・広報を閲覧したことによる問い合わせが多いことを踏まえ、各自治体広報担当者を直接尋ね、広報誌への募集案内掲載を依頼しました。
- ・コーダイグループの校友会・同窓会への冊子配布による、会員の皆様へのPRも実施。
- ・大阪府下9カ所合計11回の講座説明会を開催し、各分野の専門担当者による丁寧な説明を心掛けました。

また、説明会来場者の声を如何に取り入れるかも重要なポイントだと考えます。

- ・オープンキャンパスの実施により実際の講義を見てもらう機会を設けました。2,500名を超える応募を頂きましたが、歴史・音楽・健康を中心とした人気科目に集中する傾向は変わらず、約550名の皆さんが抽選の結果選外となりました。

何度応募しても抽選から外れるとの声も多く聞こえてきますが、早急な対応策は難しいのが現状です。

定員2,365名で、最終受講者は2,310名でした。尚、新人の応募は557名で多くの新人を迎え入れる、とのコーダイとしての課題は依然残されております。

●コーダイ・なにわの宮会

1. 秋ごろに「新入生歓迎会」を考えておりましたが、オミクロン株の感染が始まり、実行できませんでした。
2. コーダイフェスタ時に於ける物産展の依頼をフェスタ委員会より受け、メンバー一同熱心に準備を進めておりましたが、コロナ禍で中止となり涙をのみました。
3. 受講生への川柳募集を7月と11月に行いました。本年度より新しい取り組みとして、お題に「高大川柳」を取り入れました。ユーモアあふれる作品が寄せられ、今後も続けていきます。広報誌「れいんぼー」への掲載をいたしました。

●NPO法人大阪区民・大阪府民カレッジ

NPO法人大阪区民カレッジ

1. コロナ禍中「まん延防止等重点措置」や「緊急事態宣言」が発出され、開講にあたっては健康第一とし、講義日程の変更、教室やカリキュラムの変更を行い、関係各位のご協力を得て、大過なく修了いたしました。
2. 一堂に会する行事の中止、ソーシャルディスタントを取っての講義や会合、会食の控えなど、共に学び活動する機会が少なく、校外活動も自粛されました。その中でもいろいろと工夫され、仲間と共に楽しめました。
3. 入学式は2部制、修了式は各校別に実施し、修了証書は247名に授与されました。また、シルバーアドバイザー認定書（過年度受講生）は10名に授与されました。

NPO法人大阪府民カレッジ

1. 2021年度は泉州地方で初めて「岸和田・泉州校」を開校し、11校となり受講生437名が学びました。
これで地域密着型府民カレッジは、北部北摂方面3校、東部河内方面4校、南部泉州方面4校で府下各地万遍なく開校されたことになりました。
2. 1年間の講座では、コロナ感染による「緊急事態宣言」の発出が4月後半から9月末まで断続的（4/25～6/20、8/2～9/30）に行われた影響により、1学期、2学期の中で各校10講座前後の休講を余儀なくされました。
その分の振替講座を2学期以降に行い、無事24回を修了することができました。
3. コロナ対策として、広い教室の確保、3密回避の徹底（検温、消毒、手洗い、マスク、換気、黙食、ディスタンス）に努め、入学式は学校別、ふれあい合同講座は各ブロック別で行いました。